

辻村みちよ資料目録

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

辻村みちよ資料目録

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
2003（平成15）年3月



序

本書は、お茶の水女子大学の教授として長年にわたり研究と教育に従事された辻村みちよ(1888～1969年)の資料目録である。辻村の研究業績としては、何よりも緑茶に4種のカテキン類が含まれていることとその化学構造を明らかにしたことが知られているが、それに先立って、理化学研究所において三浦政太郎と共に緑茶に多量のビタミンCが含まれていることを発見しており、「お茶博士」の名にふさわしい方であった。

大正2(1913)年に本学の前身である東京女子高等師範学校の理科を卒業し、神奈川県と埼玉県で教鞭を執って後、研究を続けるために北海道帝国大学農芸化学科の無給助手となり、食品栄養研究室において近藤金助博士の指導を受け、蚕の研究を行った。大正11(1922)年東京帝国大学医学部医科学教室へ移り、柿内三郎教授の下でビタミンや銀杏の蛋白質などについての研究を行った。大正12(1923)年の関東大震災によって医科学教室は全焼したため、理化学研究所に移り、そこでビタミンB₁の発見者である鈴木梅太郎博士の指導を受けることになった。鈴木のもとで緑茶の中にビタミンCが含まれることを発見し、さらにカテキン、タンニンの結晶を取り出すこと、およびその化学構造を決定することに成功し、昭和7(1932)年に東京帝国大学より農学博士の学位を与えられて、日本で最初の女性の農学博士となった。昭和21(1946)年に女子学習院の講師、昭和24(1949)年にお茶の水女子大学教授となり昭和30(1955)年の退官まで多くの学生を育てた。その後実践女子大学教授となり、退職の後、豊橋市で御親族と共に昭和44(1969)年に亡くなるまで過ごした。昭和56(1981)年に御親族により、本学ジェンダー研究センターの前身である女性文化資料館にその遺品の中から研究に係るものが寄贈された。

この度、辻村みちよ教授の在任中助教授を勤められた山西貞お茶の水女子大学名誉教授と、辻村教授の教え子で卒業後助手を勤められた古川(高須)英氏の2年間にわたるお仕事の結果、資料目録を発刊できることになった。湯浅年子、黒田チカの資料目録に続いて、本学で教育と研究に携った世界的に著名な研究者の資料目録を刊行できる運びとなったことは、本学の位置づけが発足以来ともいえる変化の時に当って、後進にとって大きな励ましとなり、誠に喜ばしいことである。根気のいる作業を続けて下さった山西貞名誉教授と古川英氏に心から感謝申し上げる。

2003年3月10日

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター長
波平恵美子

資料番号について

『辻村みちよ資料目録』をまとめるにあたり、お茶の水女子大学ジェンダー研究センターに保管されている辻村みちよ関係の資料を再分類し資料番号をふり直した。この目録に載せるアルファベット (MT) を冠した4桁の数字はその資料番号である。